英文法 L01 第 1 講 英語の語順と文の成立

学習目標

- 基本的な肯定平叙文の主語と動詞の順から、文の成立を判断できる。

文は「主語」と「動詞」の並びから見る

英語の基本的な肯定平叙文では、まず「誰が・何が」に当たる**主語**を置き、その後ろに**動詞**を置くのが基本である。

まずは、次の順番を意識する。

主語 → 動詞 → 続く内容

ただし、動詞の後ろに必ず別の語を置くとは限らない。まず大切なのは、基本的な文では「主語があるか」「その後ろに動詞があるか」を確認することである。

定義

- **語順**：単語を並べる順番のことである。
- **主語**：文が誰・何について述べているかを示す部分である。
- **動詞**：主語の動作や状態を表し、文の中心になる語である。
- **肯定文**：否定せずに「〜する」「〜だ」などと述べる文である。
- **平叙文**：何かについて述べる文である。
- **be 動詞**：主語の状態や「何であるか」を表すときなどに使う動詞で、am・is・are などがある。
- **動作動詞**：主語がする動作や行為を表す動詞で、play・read などがある。

ポイント

基本的な肯定平叙文では、**主語 → 動詞**の順をまず確認する。

たとえば、

Yuki → is → tired after the game.

では、Yuki が主語、is が動詞である。

また、

Ken and Tom → play → soccer after school.

では、Ken and Tom が主語、play が動詞である。

be 動詞を使う文でも、動作を表す動詞を使う文でも、まず主語の後ろに動詞が来ているかを見る。

語順は意味を運ぶ

英語では、単語そのものだけでなく、**どの位置に置かれているか**が意味を考える手がかりになる。

たとえば、次の 2 文は使っている語がほぼ同じだが、語順が違うため意味も変わる。

The dog sees Tom.　Tom sees the dog.

©ミライコーチング

最初の文では、The dog が動作する側として置かれ、Tom がその後ろに続く。 2 つ目の文では、Tom が動作する側として置かれ、the dog がその後ろに続く。

つまり、この例では語順を変えると「誰が見るのか」が変わる。

図で確認すると、次のようになる。

The dog sees Tom.
主語 [subject]: “The dog”

動詞 [verb]: “sees”
Tom sees the dog.
主語 [subject]: “Tom”

動詞 [verb]: “sees”
この 2 文の違いから、今回の範囲では「主語の後ろに動詞を置く」という基本の語順を意識する。

be 動詞を使う文

be 動詞は、主語の状態や「何であるか」を表すときなどに使う。

たとえば、

Yuki is tired after the game.

では、Yuki について「試合の後、疲れている」という状態を述べている。is が動詞であり、その後ろに Yuki の状態を表す内容が続いている。

be 動詞を使う文では、**主語 → be 動詞 → 状態などを表す内容**という順に注目するとよい。

動作を表す動詞を使う文

動作動詞は、主語がする動作や行為を表す。

たとえば、

Ken and Tom play soccer after school.

では、Ken and Tom が主語、play が動詞である。play は「サッカーをする」という動作を表している。

この文も、まず**主語 → 動詞**の順になっていることを確認する。

基本的な動作文では、**play soccer** や **read books** のように、動作の対象を表す語が動詞の後ろに続くことが多い。この動作の対象を**目的語**と呼ぶ。場所や時を表すまとまりは、その後ろに置くことが多い。たとえば、**Mika plays soccer in the park.**では、play の後ろに soccer が続き、その後ろに場所を表す in the park が続いている。

また、時を表すまとまりを文の先頭に置くこともできる。**After school, the students read books.**のように文頭に置いても、その後の基本的な並びは**主語 → 動詞**のままである。ここで示した位置は基本的な例であり、すべての英文に当てはまる絶対的な規則ではない。

注意

ここで覚えるのは、今回扱う基本的な肯定平叙文の基本の語順である。

すべての英文を同じ形だけで説明したり、英語ではいつでも主語を明示しなければならないと考えたりする必要はない。ここでは、まず基本的な文の成立を判断するための見方を身につける。

©ミライコーチング

1

次の文の空所に入る語を選べ。

Yuki ___ tired after the game.

- A. tired
- B. Yuki
- C. is
- D. after the game

解答・解説

正解：C

Yuki が主語で、その後ろに動詞を置く。ここでは、Yuki の状態を表すために be 動詞の is を使う。

Yuki is tired after the game.
主語 [subject]: “Yuki”

動詞 [verb]: “is”

Pair 1

Yuki is tired after the game.

ユキは試合の後、疲れている。

- A：誤り。tired は「疲れている」という状態を表す語で、動詞ではないため、主語 Yuki の後ろに置いて文の中心にはできない。
- B：誤り。Yuki はすでに主語として置かれているため、もう一度 Yuki を置くと動詞がなくなる。
- C：正しい。is は be 動詞で、主語 Yuki の後ろに置かれて文の中心になる。
- D：誤り。after the game は「試合の後」という時を表すまとまりであり、動詞ではない。

問題文の訳は「ユキは試合の後、疲れている」である。

©ミライコーチング

2

次の文の空所に入る語を選べ。

Ken and Tom ___ soccer after school.

- A. soccer
- B. Ken and Tom
- C. after school
- D. play

解答・解説

正解：D

Ken and Tom が主語で、play が動詞である。play は「サッカーをする」という動作を表している。

Ken and Tom play soccer after school.
主語 [subject]: “Ken and Tom”

動詞 [verb]: “play”

Pair 1

Ken and Tom play soccer after school.

ケンとトムは放課後にサッカーをする。
- A：誤り。soccer は「サッカー」を表す語であり、動作を表す動詞ではない。
- B：誤り。Ken and Tom は主語になる語なので、空所に入れると主語が続いてしまい、動詞 play がなくなる。
- C：誤り。after school は「放課後に」という時を表すまとまりであり、動詞ではない。
- D：正しい。play は動作を表す動詞であり、主語 Ken and Tom の後ろに置かれている。

問題文の訳は「ケンとトムは放課後にサッカーをする」である。

演習

1

次の文の空所に入る語を選べ。

___ study English in the library.

- A. study
- B. The students
- C. study English
- D. in the library

2

次の文の空所に入る語を選べ。

The children ___ English after school.

- A. children
- B. English
- C. study
- D. after school

3

次の文の空所に入る語を選べ。

___ are happy in the classroom today.

- A. are
- B. happy
- C. are happy
- D. The students

4

次の文の空所に入る語を選べ。

The students ___ in the library now.

- A. are
- B. students
- C. library
- D. now

5

「ミカは公園でサッカーをする」という意味になる基本的な肯定文を選べ。

- A. Mika soccer in the park.
- B. Mika plays soccer in the park.
- C. Plays Mika soccer in the park.
- D. Mika plays soccer the park in.

6

「ユキは試合の後、疲れている」という意味になる基本的な肯定文を選べ。

- A. Yuki tired is after the game.
- B. Is tired Yuki after the game.
- C. Yuki is tired after the game.
- D. Yuki after is the game tired.

©ミライコーチング

7

「犬が門の近くでトムを見る」という意味になる基本的な肯定文を選べ。

- A. Tom sees the dog near the gate.
- B. Sees Tom the dog near the gate.
- C. Tom the dog near the gate.
- D. The dog sees Tom near the gate.

8

「放課後、学生たちは本を読む」という意味になる基本的な肯定文を選べ。

- A. After school, the students read books.
- B. After school, the students books read.
- C. After school, read the students books.
- D. After school, the students books.

演習問題の解答・解説

1

正解：B

完成文：The students study English in the library.　**訳**：その生徒たちは図書館で英語を勉強する。

- A：誤り。study は動詞なので、文頭の空所に置くと、この文の主語がなくなる。
- B：正しい。The students が主語で、その後ろに動詞 study が続いている。
- C：誤り。study English は動作を表すまとまりであり、文頭の空所に置くと主語がなくなり、後ろの study ともつながらない。
- D：誤り。in the library は「図書館で」という場所を表すまとまりであり、この文の主語ではない。

2

正解：C

完成文：The children study English after school.　**訳**：子どもたちは放課後に英語を勉強する。

- A：誤り。children は「子どもたち」を表す語だが、すでに The children として主語が置かれているため、空所に入れると動詞がなくなる。
- B：誤り。English は「英語」を表す語であり、動詞ではない。
- C：正しい。The children が主語で、study がその後ろに置かれた動詞である。
- D：誤り。after school は「放課後に」という時を表すまとまりであり、動詞ではない。

©ミライコーチング

3

正解：D

完成文：The students are happy in the classroom today.　**訳**：その生徒たちは今日は教室で楽しそうだ。

- A：誤り。are は動詞なので、文頭の空所に置くと、この文の主語がなくなる。
- B：誤り。happy はこの文で状態を表す語であり、誰が幸せなのかを示す主語としては働かない。are はすでにあるが、主語が欠けてしまう。
- C：誤り。are happy は動詞と状態を表す語のまとまりだが、文頭の空所に置くと、この文の主語がなくなる。
- D：正しい。The students が主語になり、その後ろに be 動詞 are が続いている。

4

正解：A

完成文：The students are in the library now.　**訳**：その生徒たちは今、図書館にいる。

- A：正しい。The students が主語で、その後ろに be 動詞 are が置かれている。
- B：誤り。students はすでに The students として主語に含まれているため、空所に入れると主語が重なり、動詞がなくなる。
- C：誤り。library は「図書館」を表す語であり、動詞ではない。
- D：誤り。now は「今」を表す語であり、動詞ではない。

5

正解：B

完成文：Mika plays soccer in the park.　**訳**：ミカは公園でサッカーをする。

- A：誤り。Mika の後ろに動詞がなく、主語の後ろに動詞が続く基本の文になっていない。
- B：正しい。Mika が主語で、その後ろに動詞 plays が続き、動作の対象である soccer、場所を表す in the park が続いている。
- C：誤り。動詞 plays が Mika より前に置かれており、基本的な肯定文の主語→動詞の順になっていない。
- D：誤り。動作の対象である soccer の後ろに場所を表す in the park を置く基本の順ではなく、the park in という不自然な並びになっている。

6

正解：C

完成文：Yuki is tired after the game.　**訳**：ユキは試合の後、疲れている。

- A：誤り。tired の後ろに is を置いているため、主語 Yuki の後ろに動詞が続く基本の順になっていない。
- B：誤り。動詞 is が文の最初に置かれ、Yuki がその後ろに置かれているため、今回の基本的な肯定文の語順になっていない。
- C：正しい。Yuki が主語で、その後ろに be 動詞 is が置かれ、疲れているという状態が続いている。
- D：誤り。is と after the game の位置が適切でなく、主語の後ろに動詞が続く基本の順になっていない。

©ミライコーチング

7

正解：D

完成文：The dog sees Tom near the gate.　**訳**：その犬は門の近くでトムを見る。

- A：誤り。この英文自体は自然だが、主語が Tom なので「トムが犬を見る」という意味になり、問題の意味とは異なる。
- B：誤り。動詞 sees が文頭に置かれ、主語 Tom がその後ろにあるため、基本的な肯定文の主語→動詞の順になっていない。
- C：誤り。主語 Tom の後ろに動詞がなく、文の中心となる動作を表せていない。
- D：正しい。The dog が主語として文頭に置かれ、その後ろに動詞 sees が続くため、「犬がトムを見る」という意味になる。

8

正解：A

完成文：After school, the students read books.　**訳**：放課後、学生たちは本を読む。

- A：正しい。文頭に時を表す After school が置かれているが、その後は the students が主語、read が動詞という基本の順になっている。
- B：誤り。the students の後ろに books が置かれ、その後ろに read が来ているため、主語の後ろに動詞が続く基本の順になっていない。
- C：誤り。動詞 read が the students より前に置かれているため、基本的な肯定文の主語→動詞の順になっていない。
- D：誤り。the students の後ろに動詞がなく、主語と動詞がそろっていない。

©ミライコーチング